

## 指標からみる「阪神市民文化社会ビジョン」の達成状況【阪神南】

「阪神市民文化社会ビジョン」（平成13年2月策定・平成23年10月改訂）（以下「ビジョン」という。）が描く将来像にどの程度近づいたのか（達成状況）を各種指標により測り、ビジョンの実現に向けてフォローアップを行う。

### 1 指標について

#### (1) 目的

- ・ビジョンの達成状況を測る「ものさし」
- ・地域の良さ（強み）と課題（弱み）を知る資料として活用
- ・地域住民の意識やその変化を把握する資料として活用

#### (2) 設定方法

総括項目及びビジョンの4つの行動目標のうち「主な取組方向」34項目について、87の指標を設定。

##### ①主観指標（57項目）

- ・「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査（兵庫県ビジョン課）の調査項目のうちビジョンの行動目標に関係するもの
- ・「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査の阪神南県民センターの独自調査項目

##### ②客観指標（30項目）

- ・各種統計調査や県の調査結果等から、地域ビジョンの行動目標に関係するもの

#### (3) 評価方法

ビジョン改訂の前年度（基準年度）（H22）と比較し、評価を行う。

#### ア 指標ごとの評価

基準年度と比較した変化の度合いを、指標ごとに以下の3段階で評価。

評価	基準年度との比較
◎	○のうち、「阪神南（R2）／阪神南（H22）」÷「全県（R2）／全県（H22）」の数値が1.0以上
○	「阪神南（R2）／阪神南（H22）」の数値が1.0以上
×	「阪神南（R2）／阪神南（H22）」の数値が1.0未満

※ H25からデータ集計を開始した主観指標は、H25との比較

#### イ 各行動目標の区分ごとの評価

◎を2点、○を1点、×を0点とし、行動目標の区分ごとの平均点で評価。

平均点	評価
1～2点	概ね順調
0～1点未満	努力が必要

### 2 全県順位（主観指標のみ）による補足

主観指標（阪神南県民センター独自調査分を除く）は、全県順位により阪神南地域の良さ（強み）と課題（弱み）を補足的に把握。

### 3 ビジョンの達成状況（令和3年度）

#### (1) 指標ごとの評価

##### ①総括的な評価

地域に対する愛着度や生活への満足度を示す総括項目の3指標の全てが、ビジョン改定前(H22)よりも高く、昨年度に引き続き「概ね順調」である。

##### ②各行動目標にかかる評価

〔行動目標1 多様で個性的なライフスタイルを育むことができる社会をつくる〕

- ・16/20項目(80.0%)でH22よりも高い。
- ・「子育て環境の充実」の3項目中2項目で達成状況が上がり、総合評価が“概ね順調”に転じた。

〔行動目標2 自律と協働による温かいコミュニティをつくる〕

- ・21/29項目(72.4%)でH22よりも高い。
- ・「子育て環境の充実」が“概ね順調”に転じた一方、「高齢者が元気な地域の実現」は“努力が必要”となった。

〔行動目標3 自然と豊かに調和した安全・快適な都市環境を創造する〕

- ・10/22項目(45.5%)でH22よりも高い。
- ・総合評価は昨年度と同じく、「居住環境の充実」「安全で安心な地域の実現」の2項目で“概ね順調”、「自然環境の保全」「地球環境の保全」の2項目は“努力が必要”である。

〔行動目標4 豊かさにとぎわいを創出する新たな阪神経済を展開する〕

- ・9/17項目(52.9%)でH22よりも高い。
- ・「地域の産業の振興」の1項目で達成状況が下がり、総合評価が“努力が必要”に転じた。

#### (2) 全県順位による補足

- ・「住んでいる地域の公共交通は便利だ」(75.3%(全県 56.2%))、「住んでいる地域は買い物や通院に便利だ」(77.0%(全県 63.7%))、「県内のどこへでも便利に移動できる」(78.9%(全県 62.5%))は、いずれも前回に引き続き県内1位である。
- ・「頼りになる知り合いが近所にいる」(57.5%(全県 62.4%))、「子どもは伸び伸びと育っている」(61.1%(全県 64.3%))等において、前回に引き続き県内10位である。
- ・「家族とのコミュニケーションがとれている」(92.7%(全県 90.2%))は前回県内7位だったが、R3は県内1位となった。
- ・「日頃から節電に取り組んでいる」(71.5%(全県 73.8%))は前回県内1位だったが、R3は9位に下がった。

### 4 現状及び今後の課題

- ・総括的な評価は全項目で基準年を上回っており、地域への愛着やこれからも住み続けたいまちという点で、ビジョンが進捗したと考えられる。一方、高齢者や障害者などが暮らしやすいまちという点では評価が基準年を下回っており、今後の課題と言える。
- ・今年度末に策定される「阪神地域ビジョン 2050」において“多様な立場の人がつながり、対話しながら新しい価値を共に創る”ことを目指す中で、高齢者や障害者も含め、様々な人々が住みやすいまちをめざす取組が、引き続き必要である。